

平成26年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	立命館大学	主たる交流先の 相手国	インド
構 想 名	産学国際協働 PBL による南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成		

〔評価コメント〕

本構想は、産学国際協働を通じて高度理工系人材の育成を図るという目的を、インドのみならず東南アジアとの連携実績を踏まえて展開しようとしているところに大きな特長がある。特に、発展途上国において生じる様々な課題に対して、「日本の経験と現地のニーズを踏まえ、リーダーシップをとって解決策を提示できる高度理工系日本人技術者」と日本の技術を活かし、「インドの政府や会社をリードして現地の課題に解決策を提示できる高度理工系インド人技術者」の育成を目指していることは、高く評価できる。

カリキュラムの内容は PBL を中心とした交流で、コンセプトが明確であり、学部生からのプログラム展開を考え、分野を特定せず一般化することによって全学推進を意図していること、また、大学院生には相互単位付与も想定しており、多層的に設計されていることなどから、高い教育効果が見込まれる。

また、その展開に当たっては、それぞれのプログラムを単独で運用するのではなく、各プログラムで培った経験と実績を活かして更に多層的なプログラムへの展開を図るという点でも、高等教育プログラムの展開例として大変意義深い。特に、将来的に貴学が中核となり、南アジアと東南アジアの大学を結ぶ計画は、グローバルに活躍する人材を多角的に育成することにつながり、期待が持てる。相手大学とは既に協力協定等を結んでおり、貴学としての長期的ビジョンの中で本構想を位置付けていることがうかがわれる。

一方で、PBL のような比較的新しい教育手法を共同教育として実施する場合は、相手大学と十分な協議を重ね、PBL を通じて学ぶ内容やその教え方、教員のトレーニングも含めて、より具体的かつ協調的なプログラムの設計が望まれる。

最後に、今回「大学の世界展開力強化事業」に採択された貴学におかれては、将来の日印関係を見据え、インドとの間の架け橋となるリーダー人材の育成に中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、構想内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。